

授業科目名	舞台芸術論	担当教員	児玉 北斗 大野 はな恵
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3 年 第 1 クォーター		
講義内容	舞台芸術論では、主に舞台を用いた各種の表現行為と観客との相互関係（五感を通じたコミュニケーション）、そして野外劇も含めて劇場空間からそのつど生起する経験、さらにはそれによる知覚の刷新や世界認識の変容について、担当教員たちが演劇、バレエ、音楽、前衛的身体表現などの領域にわたりジャンル横断的に論じる。また、劇場空間と政治性、特に文化政策や植民地主義との関係について、そしてその空間で表現行為を行う者と観客をめぐる権力関係とそこからの逸脱の可能性について、国内外の多様な事例と理論を交えて探究する。		
到達目標	・学生たちは、自らが何らかの形で今後舞台芸術に関わる際、それが行われる時空間が単に政治的にニュートラルな場ではなく、そこに多様な権力関係とそこからの逸脱の可能性を孕む場であることを絶えず自覚しながら、各々の現場に関わることができる。 ・そして、学生は、その舞台芸術の政治性が、時代や国により、またジャンルにより、いかに異なるかあるいは共通するかを、比較しながら学ぶことができる。		
授業計画	授業は以下のような内容を準備しているが、順序などは入れ替わる可能性もある。  1. イントロダクション ダンス作品の曖昧さ（児玉） 2. アーカイブの困難と「ほんもの」の再演（児玉） 3. ダンスは誰のものか（児玉） 4. ただの動きではないということ（児玉） 5. 芸術の力と権力（児玉） 6. まとめ、授業内レポート（児玉） 7. オペラからミュージカルへ：舞台芸術の変遷と再創造（大野） 8. 革命の声：『魔笛』が描く自由と平等（大野） 9. 愛と抑圧——『椿姫』とジェンダーの物語（大野） 10. ゲスト講義：商業演劇とコミュニティシアター（ミュージカルに焦点をあてて）（大野） 11. 権力と疎外：『オペラ座の怪人』の光と影（大野） 12. 境界の政治——『ウェストサイド物語』と移民社会（大野）		

事前・事後 学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎回、授業の開始時に前回の授業内容についての振り返りを行うので、事前に復習しておくこと。</li> <li>・ 毎回の授業後、授業中に紹介した参考文献・資料等について自主的に学習すること。</li> </ul>
テキスト	授業中に適宜配布する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
成績評価 の 基 準	各担当者最終回の授業内ないし授業終了後に提出する小レポート2本（各30%×2=60%）および出席・平常点（40%）により評価する。
履修上の注意 履修要件	特になし
実践的教育	該当しない。
備考欄	